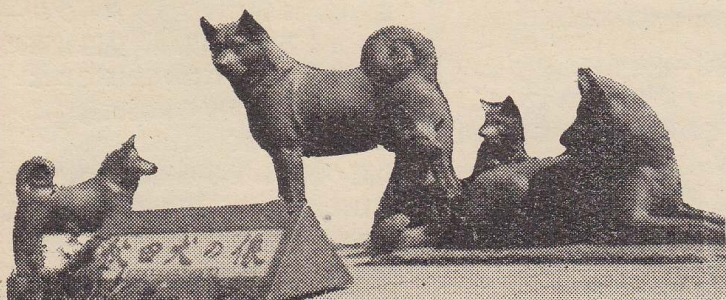


広報
(105号)

おおだて

編集と発行 大館市役所



種苗交換会特集



故横山助成氏の記念碑 見事に完成!



去る10月17日、横山児童公園の開園式と横山助成先生の顕彰記念碑の除幕式が同公園で盛大に行われた。

この日は、故横山助成先生の肉親として未亡人すま子さんと長女の静子さんをはじめ、故人の友人であった元内務大臣後藤文夫氏や、石田、松野両代議士、小畑県知事、などの著名人が多数参列してりっぱに出来あがった公園と記念碑を称賛しながら生前の横山氏をしのんでおりました。

横山助成氏は、当大館市出身で、戦前東京府知事、警視総監、貴族議員、東北振興総裁などの要職を歴任し、とくに東北の開発には大きな功績を残された方です。また、横山氏は、本県出身の後輩には親身になって指導してきたことはよく知られておるところであります。

こうした横山氏も昭和38年3月27日、79才をもって惜しまれながらこの世を去されたのですが、すま子未亡人が故人の遺志によって、その香典返しとして当市に青少年育成費として50万円を寄付されたのです。

市では、さっそくこれを元にして柳町に児童公園をつくり、これが見事に完成し10月17日からはその名も「横山児童公園」と名づけることになりました。

ところが、先輩横山氏の遺徳を慕う後輩知名士の方々が、この公園の開園を機会に故人の碑を建設しようということになり、東京県人会の浅利春次幹事長が世話役をつとめ、故人と親交のあった後藤文夫氏、石田代議士、道路公団総裁の林敬三氏、アラビア石油社長山下太郎氏、竹村吉右エ門氏、古田重二郎氏などの県

内外知名士が積極的に協力し、この資金をもって同公園にりっぱな記念碑が建設されたのです。

記念碑は、高さ約15メートル、横約2メートルの男鹿石に銅板をはめこみ、後藤文夫氏の碑文と福田豊四郎画伯の筆による声よじどりと秋田犬がきざまれ、左上段には横山氏の銅像がはめこまれているものです。

この石が横に長くしたことは、もし高くすると遊んでいる子どもたちに倒れかかる恐れがあるという、未亡人の子どもの思う美しい心づかいから横長にしたというエピソードが関係者の中から伝わっています。

(写真) 除幕式直後、生前の横山氏の偉業をしのびながら見事完成した記念碑を見つめる後藤文夫氏(左)と佐藤市長